

第5回府中市文化芸術推進計画検討協議会会議録

1 日 時 令和7年7月2日（水）午後3時～午後5時

2 場 所 府中駅北第2庁舎3階打合せ室

3 出席者（敬称略）

(1) 委員9名

小林真理委員（会長）、大平洋介委員（副会長）、小野一之委員、小林瑞恵委員、
玉村明日香委員、中村洋子委員、橋本善八委員、鹿島伸明委員、澤井すみ子委員

※ 新井有佐委員 欠席

(2) 職員9名

矢ヶ崎文化スポーツ部長、古田文化スポーツ部次長兼スポーツタウン推進課長
平澤文化生涯学習課長、斎藤文化生涯学習課長補佐、
佐々木文化生涯学習課文化振興係長、中司主任、鵜久森事務職員、
鎌田美術館副館長、江口ふるさと文化財課長

4 傍聴者数

1名

5 報告事項

(1) 配布資料の確認

ア 会議次第

イ 資料1 第4回文化芸術推進計画検討協議会会議録（案）

ウ 資料2 第4回文化芸術推進計画検討協議会振り返りシート

エ 資料3 次期府中市文化芸術推進計画骨子

オ 資料4 次期府中市文化芸術推進計画素案

(2) 前回会議録の確認

各委員に校正を依頼した前回会議録（案）について、市民に公開することが了承された。

(3) 資料説明（事務局より）

第4回協議会の意見を資料2に整理

資料3「骨子案」の説明

資料4「素案」の説明

6 審議事項

素案の検討

会長： 資料4の10ページと11ページの「ふれる・はぐくむ・うけつぐ・
つながる」のところを中心に、目を通してほしい。

副会長： 全体を通して読むと、被っている内容もあるが、それはそれで良いと
感じた。流れとしてはスムーズでよくできている。

7ページについて、「一方で、年々、施設の利用割合が少なくなってい

ることから」は、どこのどのようなデータなのか疑問がある。

細かい言い回しは見直す必要がある。

10ページの基本理念「多様性を尊重し合い、人と文化が響き合うまち」は、元は「磨かれるまち」だったが、これはこれで良い。

11ページの基本施策4「つながる」は気に入っている。

委員： 6ページに文化芸術の分野と内容が書かれているが、これは一般的なもののか。

会長： 法律で書かれている一般的なものだ。

委員： これはそのままという認識か。国民的娯楽で、かるたやボードゲームもあると思うが、法律で決まっているならば変更しなくても良い。

会長： 自由に読み替えていい。府中市はかるたに力を入れている。

委員： かるたは映画の題材にもなっている。また、全ての市立小学校では武蔵府中郷土かるたに取り組んでいる。

会長： 法律をそのまま書くと、地域性が見えなくなってしまうという課題もある。計画の内容で府中市の特色を出しても、文化の範囲のところで地域性が出ていないと、読み手に疑念を持たれる可能性がある。

委員： 昭和48年から発行している武蔵府中郷土かるたは、市内の小学3年生に配布されている。武蔵府中郷土かるたを通じて府中市の歴史・文化・自然に興味を持ってもらい、将来の市を担う子どもたちに期待しているという形だ。府中市の歴史資料館に行った際、武蔵府中郷土かるたがあった。パッケージが自分の子どもの時の記憶のままだったので、受け継がれている。

「ちはやふる」では片町文化センターが大会・練習場所のモデルになっており、若い人達に身近に感じてもらえる。内容的にも誇れるものなので追加できればいい。

会長： 無難に他と同様に作るやり方もあるが、文化芸術基本法でも地域の独自性を考えて作ることにしているため、むしろ独自性を入れて明確にしたほうが良い。いずれにせよ認知されているものを広報する発想があれば、入れてもいいのではないか。

私のまわりに競技かるたをやっている人がいる。その人は、競技かるたを将来的に継続するためにどうすべきかを考えており、府中市が重要な役割を果たしていると言っていた。この会議であまり一度もかるたの話が出なかったが、武蔵府中郷土かるたは歴史とも結びついており、ここに出してもいいのではないか。

委員： 武蔵府中郷土かるたは、がいどまっふ府中を利用して回ることもできる。実際に回った経験をした小学生が成長したときには、ボランティア活動などで自分の言葉で案内できると思う。小学生が歴史や文化を学びながら成長するのは理想的な流れではないか。

会長： 特徴として入れるのか、歴史に入れるのかは検討が必要だ。活発な文化活動のところでいいかもしれない。

委員： 一市民として読むと、いい出来だと思う。

ただし、現行計画の振り返りや現状把握がないままでは、ここに至った経緯が見えない。

会長： 3 ページのところに到達点と課題が書かれている。

委員： 最近の動向として、「協働しよう。そうしよう。条例」が令和 7 年 3 月 23 日に施行された。不変的な要素を条例に掲げ、協働の基本理念を法的に明文化することで、市と市民の協働を制度化し役割を担うように位置付けているが、これは視野に入っているのか。

本計画は府中市の総合計画に則ったものなのか。それとも、新たなものとして出てきているのか。また、計画の内容について、何を踏まえて盛り込んだのか、市民アンケートなのか関連計画からなのか、それを分かるようにしたい。

キーワードは、文化施設のミッションの明確化が入っていた方がいい。「つなぐ、うけつぐ、はぐくむ」はいいが、「ふれる」は「知る」の方がいい。継承に関しては、見るだけではなく、70 周年を記念した内容が入っているといい。理念に関しては、アーカイブについても入っていれば良い。

会長： 行政には個別の計画があり、例えば生涯学習推進計画とこの計画は、ある意味別物だ。総合計画は市全体に対して大きくあるが、個別計画は別に動いている。

この文化芸術推進計画に盛り込んだ理由を明確に書くべきなのはおっしゃるとおりだ。今の話は、達成されていること、されていないことを、これくらいのまとめで記載して良いかという主旨だと理解した。

協働の推進は大切だ。協働を具体的に実施していくときに、どのように協働すべきかについては次の回で話したい。すべて行政だけがやるわけではないので、どういう人にどのように関わってもらうのか。制度の話になるかもしれないため、もし協働の理念を入れるのであれば、そこに入れるのが適切だと思う。

委員： 10 ページの理念は説明がもう少し簡潔でも良い。いきなり「親」が出てくるので、人として、社会的な存在として、などの文章にすると良い。全体像はよくあるワードで分かりやすくして良い。

「うけつぐ」は、かるたの話もあったが、アーカイブの問題と絡んでくる。どのように考えるかは難しいが、あちこち広がらないようにするためには「うけつぐ」の中にアーカイブの概念を取り込むことが良いのではないか。

次の展開で、協働して文化を推進していくということはどういうことなのか、事務局や委員で事例を集めて具体的な案を出す必要があるのではないか。

全体としてはまとまったものになっている印象だ。

委員： 10 ページの「人は、あるときは親として・・・」は、文章として引がかかっている。「あるときは社会や家庭の一員として」という言葉の方が良い。

11 ページの分け方は、分かりやすい表現でこのままで良い。目指す姿の基本施策 1 の「ふれる」の中の、市民同士という言葉は、「相互の」やひらがなの「どうし」が良いのではないか。

委員： 分かりやすくまとめられている。

基本施策3の「うけつぐ」は府中市の特徴的ではないかと感じているが、3番目では他の基本施策に埋もれてしまうのではないか。「うけつぐ」が先にあると、「ふれる、はぐくむ」につながるように思った。あるいは、「ふれる、はぐくむ」があって最後に「うけつごう」でも良いのではないか。改めて、府中市ならではのキーワードだと思う。

会長： 骨子の時に検討しても良かったかもしれないが、順番や並べ方は議論が必要だ。全体がつながって、みんながいろいろな形で触れることで、文化が発展的に展開していくことになる。

これから数年で重点的にやることを明確に出しても良い。重点施策や重点課題をはっきり出す場合もあるが、例えば、「うけつぐ」が重要であれば、一番上に持ってくることで見え方が変わる。表現の仕方にはなるが、一番上にあるものは、課題意識が強いと受け止められやすいので考えても良い。

委員： 11ページの基本理念や基本施策は良い。子どもにも大人にも分かりやすく伝わりやすい。ただ、他の自治体でも使われやすい言葉であり、府中が文化に強い街なのであれば、個性を出してその言葉が強調されるような使い方をすれば、他の自治体には無い歴史などを伝えられるのではないか。他の自治体でも多様性やSDGsの文脈の中で使われやすい言葉であり、府中が使う強さがあると良い。

10ページの枠内は表現を調整したほうが良い。1項目の最後の「ふさわしい形」は、どういう形なのか。言葉の使い方に違和感を持った。2番目の災害については、今の表現では発生してからつながりを作るように思えるが、災害時につながりを作るというよりも、それ以前に文化でつながりを作るということだと思う。また、「助け合う、支え合う」という言葉を入れた方がいい。3番目については、主体が何か分かりづらい。一番下の「幸福感が高まります」という言葉については、語調を他と統一する必要がある。

今後の会議で言葉の提案ができるなら、別途お伝えしたい。

会長： ニュアンスは難しい。配慮して言葉を選んでいくことが求められる。できるだけ皆さんが納得できるようにしたい。

委員： 10ページの基本理念2つ目の、疫病や自然災害に立ち向かうという表現について、対立構造にせず、減災・レジリエンスという言葉を使ってうまく共存しながら乗り越えていくという考え方の方が良い。それも踏まえて、この文言は調整が必要だ。この場合は、「立ち向かう」ではなく、「うまく越えながら」などはどうか。

11ページの基本施策は良い。文化にアクセスするという意味だと思うが、「ふれる」は良い言葉だと感じた。博物館では、よく見てほしいと言うことで視覚障害者を排除してきた歴史があるという考え方があり、そこからユニバーサルミュージアムという考え方が出てきた。アクセスしやすいところで、それぞれ文化や芸術に触れていく。「ふれる」だと、その人に相応しい距離感も調整できる。どっぷり浸からなくても、触りだけでも良いという印象を受けるので、「ふれる」という言葉は良い。

3つ目の「うけつぐ」という言葉は、自分たちの代で終わるような感

じがする。継承されていくものなので、「伝える」「つなぐ」が相応しいのではないか。

順番は色々な意見がある。「つなぐ」と「つながる」は順番が逆でも良い。

会長： 「うけつぐ」は「伝える」の方が良いと思った。「うけつぐ」だとそこで終わってしまうような印象がある。次に伝えるというニュアンスがあれば全体が循環する。文化を保護、継承してくときには、色々なつながりがある。新しい物を生み出す人も、古い物を見て触発される。つながって盛り上がる感じが出ると良い。

今までの話だと、基本理念の中身は良いが、今の時代に合った表現の工夫が必要ということか。更に意見をいただきたい。

副会長： 昨日発行された広報ふちゅうは、表紙や中の記事で文化センターの紹介をしていた。前回の会議で出た、前から住んでいる人は知っているが、新しい住民には分かりにくい事がとても上手く紹介されており、良い流れになってきていると感じた。文化センターが発展し利用率が高められると良い。

表紙のキャッチコピーは、今回のキーワードと連動するものではないかと感じたため、今後考えていかなければならない。

6ページの「そもそも文化とは・・・」の言葉は少し大上段であり修正したほうが良い。

第3章までと第4章からは、字の大きさなど違うところがあるため、直した方が良い。

会長： これから体裁は直す必要があるが、まずは素案の内容を見てほしい。文化センターを紹介した広報は私も見たい。

委員： 計画を実現するために、ロードマップを表示したほうが良い。プロジェクトの目標達成までの道のりを時系列に表示すれば、全体像が見えて、関係者が横断的に確認できるようになる。目標値の達成度をオープンに伝えたほうが、責任感を持って反省も踏まえた次年度の検討もできる。

前回、この計画は府中駅中心の賑わいであって、他の駅は人も少ないとの話があった。気になっているのは、商店街の個人の店が無くなっていることだ。商店街を地域資源の一つと捉えて活用すれば、駅から離れていても賑わいや交流を促進できるのではないか。

計画の中で公園が忘れられているのではないか。公園で小さなイベントや販売などのコミュニティ活動を行うことで身近にできるのではないか。どのように伝えて活用するかは重要だ。

昭和40～50年に設置された施設が多く、老朽化している。文化センターが自立して稼働する取組をしなければならない。

「うけつぐ」の話だが、「つむぐ」という言葉はどうか。繭から取り出して撚り合わせて糸にする。例えば想いや人生や夢を紡ぐ。「つむぐ」という言葉には、込められた思いを大切にするというニュアンスが含まれるため、子ども達には難しいかもしれないが「つむぐ」が良いと思う。

会長： ロードマップについては、次の回で話題になると思う。計画を推進していくためにどういう仕組みを作ってやっていくかという話になるが、

協働の仕組みや、やり方を持ち寄って考えていく必要がある。状況を確認しながら計画を進めていくことはロードマップに関係している。厳密な物を作る必要はないが、大まかな計画は入れ込むのが基本だ。

委員： 理念は「協働しよう。そうしよう。条例」を加味して表現できれば良い。

4 ページに計画の位置付けの図があるが、そこにステークホルダーの図があっても良いのではないか。

文化センターは文化芸術の推進に大きな役割を果たしており、現在の文化センターはどうなっているのか皆さんに興味を持っていただきたいので、広報に載ったのは凄い。

芸術に関しては、美術館の他に、多数の仏像を持っている寺社もある。それらを広く市民に知らせることも必要なので、文化的要素以外に、芸術的な要素も入れた方が良い。

祭りや運動会がうるさいと言われることもあるが、文化芸術をどのように「ふれる・はぐくむ・うけつぐ・つながる」に結び付けるかは課題だ。

会長： 文化センターの位置付けはどうなっているのか。

事務局： 府中市では、公民館と児童館の複合施設を文化センターと呼んでおり、どちらかと言うとコミュニティ施設の要素が強い。

会長： 先程の意見は、ここに出ている施設以外にも文化を育んでいく上で重要な役割を担っている施設があるという指摘だと捉えた。老朽化が進んだ場合に施設が廃止される可能性もあるが、その施設が重要な役割を担っているのであれば、建て替えて存続させるという方向性の方が、この会議の考え方としては良いように思う。

委員： 今年から文化センターの改築計画が出ている。

会長： 老朽化している施設は多数ある。存続させるという方向性を後押しすることを記載しても良いのではないか。具体的な施策としてでなくても、例えば「文化センターは一定の役割を果たしてきた。今後も大切である」のように、どこかに記載しても良いのではないか。文化センターは基盤的なことを担っていると感じた。

祭りが好きな人ばかりではないと思うが。寛容なという言葉が良いか分からないが、そのような気持ちで府中に住んでもらいたい。

委員： 中心市街地から離れた地域にも力を入れる文化芸術推進計画であるべきだ。

会長： 他県の計画策定の会議で地域間格差の話が出た。県レベルだと対象地域が広いので、文化の地域間格差があることを視野に入れて機会平等にできないかという内容だった。芸術施設を全部の場所に作るということではなくて、色々な形で文化に触れて受け継ぐ場があると、今後もつながっていくということを入れたほうが良い。地域間格差は市レベルでは書かないと思うが、認識しておくことは重要だ。全ての人に届けられるのか、問いかけられていると感じた。

委員： 6 ページの分類は、文化を広く捉える時に支障になる。表下の「人間の営みに・・・」の文章は良いことを書いているが、上で文化の範囲を

絞っているんで、違うことを言っているように見える。少なくとも催事や芸能など、府中固有のものが表現される必要がある。

広報ふちゅうは全戸配布か。

事務局：新聞配達先と希望者、駅などで配布している。

委員：新聞を取っていない人が増え、広報紙の全戸配布は難しくなっている。他自治体では、文化・スポーツ事業の独自の広報をWeb上でも出しているところもある。情報をどう発信するかを計画の中の「ふれる」の項目に入れても良いのではないか。「ふれる」きっかけをどう作っていくかは、意識的にやっていかないと計画だけで終わってしまうため、情報発信のことを入れておきたい。市の情報発信力が重要だ。

県レベルでは広すぎて難しくても区や市レベルならできることもある。文化センターを拠点として活用することで、府中市の中の地域間格差は解決されるのではないか。

ロードマップは難しい。ロードマップを作るのであれば、あまり作り込み過ぎず、あくまでも目安として作った方がいい。

会長：情報発信は結構話をしてきた。やり方も変えていかなければならない。どこに入れるべきか。

委員：11ページの「ふれる」の方向性の3つ目に「あらゆる市民に届く情報の収集・発信」とあるが、これは実際にはあり得ない。「あらゆる市民」ではなく、もう少し具体的な方策を入れた方が良いのではないか。

委員：アプリには入れられないのか。自治会では、データで配信している。

会長：同様のアプリは私も見るが、自分が欲しい情報はなかなか来ない。文化芸術系の情報は自分で取りに行かないといけないと思うが、最低限どのように届けるかを考えなければならない。

委員：全体に届けるのは難しいが、見る人は、映画や展覧会、芝居もすべて見るので、領域ごとの情報発信は専門家が作らなければ使いやすいサイトにならない。いかに分かりやすく、アクセスしやすいサイトを作るかだ。

会長：文化の公立系の情報発信は上手くないと感じる。地元の住民向けに発信しているからか、Webサイトでは欲しい情報が取れないことが多い。発信のやり方を変えれば、他市の人も来てくれて、公立系のホールもいいと思ってもらえる。情報発信は基本だという話は何度も出てきているが、市も苦勞していると思う。文化芸術をどのように届けていくのか、上手く盛り込みたい。

委員：情報の話は年代格差もある。紙でなければ知ることができない人も多いので、紙媒体の効果は大きい。今はWeb配信が便利だという人もいる一方で、面倒に思っている人もいるので、年代、あるいは個人格差もあり、皆がWebを使いこなさないといけないというのは無理がある。

委員：紙媒体のセンスは重要だ。

委員：紙はパッと見ることができ、目につくところに置いておけば、チケットを買うのも忘れない。紙は必要だ。何でもスマホでいいというのは難しい。

8ページの写真の文化団体は、各文化センターに登録している規模の

小さな団体もあるので、「府中市における文化活動」に入れても良いのではないか。社会教育関係団体は1,010団体あるが、他にも自主グループとして文化活動を行っている団体が多数ある。そういう数字を出せると良い。

かるたのことは、府中多摩かるた会連盟が熱心に大会を運営している。片町文化センターを会場にしており、すばらしい活動だ。今は若い世代が中心になって活動している。

会長： かるたの活動はアーカイブにつなげて良い。緊張感溢れる競技の様子をアーカイブとして残しておいて、後で見られるようにしておくことは重要だ。美術館や博物館はずっと展示しているので見られるが、祭りのような無形の物を上手く記録とし残していけるといい。新しい技術を使って残すこともできる。

情報発信は紙も重要だが、きめ細かに届けることも重要だ。面倒だがアプリなども含めて、届けたい人に届くようにする努力は必要だ。潜在的な顧客に届くように意識することも重要であり、きめ細かにサポートする必要がある重要な施策であることを表現したい。

委員： 情報発信は私も気になった。市民活動センターには、文化情報を得るために来館する方もいる。紙媒体やホームページなどを情報発信に活用しているが、文化センターなどの拠点場所自体も情報発信の場になっている。この計画も届くと良い。昨年一年間の府中市内のイベントは、市民団体が動画を作って配信しており、それを館内で放送していた。

会長： 場所は大事だ。場所があるからこそできることがある。バーチャルが良くないとは思わないが、リアルの場の意味は重要だ。

計画には、今までやってきたことや、できていることを含めて書いたほうが良い。市の特徴や文化の分類の書き方なども含めて、書き方の検討が必要だ。

委員： 11ページの計画の全体像の「ふれる」の中の「市民同士の理解」は、「市民同士の対話」を使えば良い。

表紙については、「府中から奏でる文化芸術推進計画」にしてはどうか。そのあと、4つキーワードを並べると良い。

情報発信は、紙媒体は重要だが、インターネットの時代なので、ネットの中で情報を取る人が多い。Webページを作るにしても届けたい人や潜在的に必要な人にどのように届けるかを考えると、アルゴリズムの仕組みを応用する視点もあるのではないか。発信してもなかなか届かないので、仕組みを理解して引っかかるようにしないと漏れてしまう。専門家の視点やITに長けた人の力を借りるのも重要だ。

会長： 情報が取れなくて断念してしまうことが多いので、専門性のある人が作らないといけない。時代が変わる中で、今の技術をどう活用していくか。政府がDXの分野を推進している間にやれることをやった方が良い。

委員： 文化資源のアーカイブ化は重要だが、過去の府中の伝統文化は、分かったような気がしてしまい進まないと思われる。新しい文化を作るとともに、過去の文化を掘り起こすことも重要だ。他自治体では、地域で守り、語り継いでいる芸術を見出す取組を行い、美術業界でも評価された

事例がある。都市のブランド力に文化面が与える影響は大きいと思った。府中でも掘り起こせば出てくるのではないか。この「はぐくむ」や「つなぐ」の項目の中に、掘り起こすことにも触れられたら良い。

他の委員の意見にもつながるが、表紙もキーワードを上手く入れながら、その先のことも考えて、循環して広がっていくイメージになれば良い。「つむぐ」という言葉も良いと思う。上手く組み合わせれば、もう少しおしゃれな推進計画になるのではないか。

会長： 府中は歴史的イメージがあるが、他にもまだあるのではないか。皆が良いと思って府中に住んでいるのであれば、新しいものが紡がれている気がする。新しい文化を見出していくことも、この計画としては重要であるため書けると良い。

「府中から奏でる」という言葉は良い。キーワードは3つのほうが収まりはいいが、基本施策の4つとどのように整合性を取るのか。また、別のひらがなの候補が出てきたので、もう少し検討したい。

せっかく計画を作るのであれば、これを基に府中がもっと文化的になるにはどうすればいいのか考えたい。

今まで出てこなかったが、競馬場は文化とは無関係なのか。

委員： 馬の文化は古代に遡ることができる。国府のまちの馬として、つなぐと思えばつなぐことはできる。

会長： 地域史として競馬場も入れても良いのではないか。経済的なこともあるが、シンボリックな存在でもある。

今回は、今日の議論を踏まえて修正すべきかどうかの意見が欲しい。また、協働・共創の具体例を持ち寄って、文化芸術における協働・共創の仕組みを検討したい。博物館や美術館は事例もあると思うので、そのような話もしてほしい。

委員： 6ページの表を違う分類にすることは難しいか。2段落目の記載内容を基本にすると、このような表になるのか。

会長： 文化芸術基本法では文化の定義をしていないため、施策から考えるとこのようなジャンルになるというだけであり、載せなくても良いのではないかと考えている。載せるのであれば、載せる理由を次回事務局から説明してほしい。

委員： 協働・共創の具体例については、今やっていることが分かってからでないと、各委員でやり方を考えてきても2度手間にならないか。

会長： 自由に考えてきて良い。例えば、劇場や博物館などでカバーできない部分を、どう協働や共創でやっていくかは考えていく必要がある。

また、施設利用料の減免ではない、他の支援を望んでいる声もあると思う。市に登録していないが文化活動を行っている団体も含めて求められている支援を考えていく必要がある。その場合は、市が直接支援するのではなく、どのようにつなぐかを考えていかないといけない。

7 その他

次回の府中市文化芸術推進計画検討協議会の日程については、後日連絡することで了承を得た。